

「特集」

⑦

家族の公式。

いまと、
これから。

いまとこれから
のとつとりの
ための
ボランティア・
地域づくり・
NPOを考える
情報誌

家族の公式。®

家族に纏わる活動紹介①

ファミリーホーム

来夢来人
らいむらいと

誰にでも
帰る場所が
必要です。



福谷 則枝さん
ファミリーホーム来夢来人
鳥取県里親会会長
電話 0858-36-5071

来夢来人は県内に3箇所あるファミリーホームの1つで、鳥取県北栄町の一軒家に5歳から高校3年生までの6人の子どもたちと福谷さんが住んでいます。これまでに福谷さんは里親として30人以上の子どもたちを社会に送り出してきました。

里親制度は虐待や親の病気などの理由で親と一緒に暮らせない子どもを、必要期間家庭に迎え入れる制度です。里親制度では、戸籍上も親子になる養子縁組里親、一時的に子どもを預かる養育里親、虐待等により専門的ケアを必要とする子どもを預かる専門里親、3親等以内の人が養育する親族里親があります。ファミ

リーホーム（小規模住居型児童養育事業）は里親制度と並ぶもので、里親や児童養護施設職員など経験豊かな養育者がその家庭に迎え入れる里親型のグループホームで、児童5〜6人の養育を行います。

鳥取県内で里親に登録している人は約100組。里親やファミリーホームへの児童委託数は年々増えていますが、里親の登録数はそれほど増えていません。

福谷さんには、同じく里親となり今は高校生を育てている里子もいます。時には子育ての相談にのることも。「でもね、子育てと言っても、自分を全て出して、子どもとなんでも話すしか

ないんです。」と福谷さん。そんな福谷さんの元には、お盆やお正月になると今は自立して別の場所で暮らしている子どもたちがお年玉やプレゼントを持って帰ってきます。最年長は50代で、今ではよく相談相手です。

加えて、福谷さんは「地域で暮らす」ということも大切にしてきました。地域の人々に助けってもらいながら暮らす中で、福谷さんも近所の子どもたちにも遊びに来てほしいと、自由に出入りできる「ミニ図書館」をつくり子どもたちを迎え入れています。

今年の春にはまた一人、高校を卒業して来夢来人を出る子どもがいます。里親

の元で暮らしている子どもたちも、児童養護施設で暮らしている子どもたちも、18歳になると自立して社会に出ていくことになります。しかし、自立したあとのケアをどうしていくか、どう支えていくかも社会的な課題です。

福谷さんは子どもたちの自立に向けて、住居のことや車の免許といったこれからの生活に必要な準備を送り出す最後の時まで子どもたちに寄り添いながら行っています。

「誰かの帰る場所になること。それが家族かどうかはわからないけれど、私は子どもたちに生かされています。」

いまと、 これから。

CONTENTS

【家族の公式。(下)】

- 座談会「シェアと家族と暮らし。」…………… 4
- 家族に纏わる活動紹介 来夢来人…………… 2
- 産後ケアやわらかい風、チャイルドラインうさぎのみみ…………… 9
- インタビュー 政策科学博士の東根ちよ先生に
家族について聞いてみました。…………… 10
- 編集部も家族について考えました。…………… 12
- 質問「あなたにとって家族とは？」…………… 16

【ミニコラム】

- ・今日もつまみぐい…………… 13
- ・いま、これ、ぶっく。…………… 13

【高校生 ing】

- ・溢れる『地元愛』 蘇れ！我が母校…………… 14

[特 集]

家族の公式。

⑦

仮に一番小さなコミュニティのことを家族と呼ぶとして、そのコミュニティとはお互いに助け合って暮らす共同体のことだとして、その条件で考えてみた時に、自分にとつての「家族」って、誰だろう。またはちよつと設定を変えてみて、コミュニティとは自分が守りたい人たちと考えてみたかどうか。どうなんだろう。3月11日。この日は多くの人にとつて、もしかしたら、そうした家族のことを思う日になったのかもしれない。それはあ

る人にとつては1月17日であったり、10月23日、7月7日、9月6日：自然災害だけでなく、紛争やテロなどで家族と離れ離れになってしまう人もいる。人間はまだまだ不完全で、か弱くて。紛争がない国や町でも離れて暮らさざるを得ない家族や家族自体の行為により暮らせないこともある。家族が窮屈なこともあるし、家族が重荷なこともある。特には誰かにとつて凶器のようなことがある。そうした事実に向面するたび

に、そうした話を聴くたびに、別の家族や、別の形の家族のあり方について考えてみたりする。きつとレジリエンスに家族を考えられたらいい。レジリエンスは「弾力性」や「回復力」という意味。どちらも発揮できるという。ピチカートファイブのアルバムに「戦争に反対する唯一の手段は」と題されたものがある。その先には「各自の生活を美しくしてそれに執着することである」と続き、これは英文学者で吉田茂

さんの子どもの吉田健一さんの言葉。辞書には美しいの意味として「しみじみとした深い愛情を感じるありさま。」とも書かれている。家族と呼ぶ人達との生活が美しくればさらにいい。

「家族の公式」下巻。前号の内容も踏まえながら、「レジリエンス」と「美しさ」も意識しつつ、そのあり方を一緒に考えていきましょう。

家族の公式。⑦

シェアハウスという暮らし方も一時の流行というよりは暮らし方の一つとして定着してきました。それまで知らなかった他人と一緒にひとつ屋根の下で暮らす。でも婚姻関係とか養子縁組とかでもない。アパートやマンションのような集合住宅でもない。リビングで一緒にコーヒーを飲んだり、時にはお酒を酌み交わしたり。でも学生寮とかでもないこの暮らし。それはもしかして家族の新形態なのか？ということで、座談会開催です。

【座談会参加者】

森哲也さん

湯梨浜町にある書店

「汽水空港」の店主。

もとシェアハウス住人。

水田 美世さん

「ちいさいおうち」管理人。Webマガジン

toto(トット)編集長。

田川 慶一郎さん

鳥取市内のカフェ

Cafe10857オーナー。シェアハウス立

上げに関わっている。

谷 祐基さん

元シェアハウス住人。

上山 梓さん

元シェアハウス住人。

シェアと
家族と
暮らし。

「座談会」

(1) あなたにとって

家族ってなんですか？

司会

池淵 菜美

水田「長い時間を共にする他人」

いいも悪いも、長い時間を共にする他人。血がつながっている自分の子どもでも自分とは全く別の人格なんだなとすごく感じるし、今後毎日意識しておきたいと思ってます。お母さんから生まれてるけど、ひとりで生まれてひとりで死ぬから。いつかは離れる、みんなやっぱひとりと。私もすごく甘えなくなったり、誰かの意見の通りにしたら楽だなと思うことはいっぱいある。だからこそ反面教師というか、頑張って割り切ろうと。自分とは違うひとりの人だということを感じながら生きていくという風に思っています、家族でも。

田川「軽くて重い」

僕は人が死んでも何とも思わないタイプなんです。悲しいとは思いますが。ただ皆が思っているほど重たくは感じなくて、結局みんな全てを忘れていくという感覚があるんです。薄らいでいくというか。

あの時あれだけ泣いたのに、全然何とも思わなくなったみたい。何を重く感じるのか軽く感じるのか基準って本当にその時々で変わっていくなと思っていて。

家族っていう定義がすごく難しいなということをちょっと考えていました。正月にみんなが集まった時に家族って非常に難しいなと感じたんです。重いときもあれば軽いときもある。必要かって言われたらそうでもない可能性もあるな。家族っていう単位が必要かどうかということも考えます。もしかしたら親族よりも一緒に仕事している人の方が時間を共に過ごしているし、家族に話していないことを話している可能性もある。そういう意味では家族より深いとか。親族という言葉は確かにあるけど、それが家族なのかって言われたらわからない。

上山「甘えられる関係」
私が考えているのは狭い意味での家族なんですけ

森哲也

谷祐基

田川慶一郎

水田美世

上山梓

ど、甘えられる関係かな、と。困ったときに言えば何かしら助けてくれるような。それと他人と何が違うかといったら、100%この人に言っても大丈夫という関係かなと思います。

谷「空気」

2つ意味があって、ひとつは生きていく上でなくてはならないという意味で、もう一つが、いい言い方じゃないけど、普段一緒にいると一緒に居る感じが当たり前存在を時に居るのが当たり前みたいなところがあって、そういう意味で空気ですね。いい意味でも悪い意味でも。

森「自分がどう見られるか気にしない関係」

自分の実際の血のつながった家族で言う、自分の兄ちゃんとは全然仲良くないんですよ。20年くらいしゃべってないし。自分の血のつながった家族はネガティブな感じが

あるけど、そうじゃない自分の理想の家族を思い浮かべるなら、自分がどう見られているか、自分を嫌いとか好きとかに関わらずOK、みたいなのがいいなと思ったんです。「お互い全部認めるぜ」みたいな。お店にお客さんの子どもが来るんですね。2、3歳くらいの子ともとか。本破いたりしちゃうんですよ。だけどこっちは他人の子だしと思って注意できない。どうしたらいいかなと思ったときに、自分の子どもだと思おうかなと思って。で、容赦なく「コラー」と言おうかなと。

その代わり、その子にいいことあったら一緒に喜ぼうって。一方的にそうやっていこうって思い込んでんです。そういうわけで自分の家族のイメージは、そこに愛がないといけないという感じ。相手が自分をどう思うか関係なく愛そうと思って。むかつく気持ちで「コラー！」というんじゃない、もっと違う愛を持った「コラー！」が言

えるなら、言ってもいいだろうって思い込んだ。あとみんなの話を聞いていたら、縁みたいなものかなとも思いました。出会って、その結びつきが強くなった人が家族って気もした。それが数年後には薄らいでいくこともあったりして、家族もその時々で違っているんじゃないかなって。

(2) みなさんが暮らしていくのに必要なものはなんですか？

上山「お願いする力」
最終的に何かと考えると、困っていることを素直に言うって助けを求められるところだなと思っています。

森「食べ物」と「なかを作る体験」
生命を維持していく上で食べ物が必要だなと思いが浮かんだけれど、それが満たされたらやっぱり何かを作っていくって

うのが、自分には必要だなと思っています。それは何でなんだろうかと考えるんですけど、わかりません。なんかこうエネルギーを何かに変えなきゃ、人間たぶん精神的によくなかったりするんじゃないかなと。具体的な物体じゃなくても、なんらかを作っていくたいんだらうなと思っています。

水田「愛する気持ち」
愛と言っているのかわからないのですが、すごく興味を持つものとか、「好きだな！」と思えるものを持つておくことが私には必要かなと思います。あと、愛されるよりも自分から動いていく、愛していくという気持ちがないと、人生面白くないなと思っています。

田川「感動」
感動がないとだめですね。平均的に生きるより、ふり幅のある生き方をしたいと思っています。ちよつと幸せちよつと不幸せのふり幅より、とて



も辛いことととても大きな感動はふり幅は大きくなりますよね。ふり幅の高さが感動の大きさ。それからふり幅を紐にしたときに、その紐の長さが人生の寿命だと思ってるんです。大きな感動を感じるためにはすべてを感じなきゃいけない。嫌なことも辛いことも。これがあれば僕は生きていける。天気も一緒に晴れたり雨が降ったり曇ったりする日もあるの、いいも悪いもあるの、それを踏まえた上で感動がどんなあれば、楽しくていいなと。その感動を誰かと共有できたらいいなと。絶望も、もう、くるものはくる。嫌でもくる。どうしようもないっていうことに気づいたんですよ。きたときはどうするかの対応は出来たほうがいいなと思っています。

谷「つながり」。

今の日本では珍しいんじゃないかと思うのですが、自分は鳥取では飢え死にをしないだろうな

と思っています。絶対誰かに助けてもらえるという変な自信があつて。どうしてもおながが減ったら、いつものつながりの、例えば森さんのところまで来て「おなが減ったんでどうにか助けてください。」と言ったら、何か食べさせてもらえるんじゃないかと。甘さでもあるかもしれないけど、それが鳥取だったらできそうだと思っています。ただ、地元の山口だと、自分のつながりは唯一親とか親族とかなんです。親や親族がいなくなったら地元の手口では生きていけないんじゃないかぐらいに思います。逆に言えば鳥取だと頼んだりお願いできる人がいる。つながりさえあれば、自分がお金なくても何も着てなくても、生きていけるんじゃないかという思いがあります。

(3) シェアハウスは「住むところ」を共有して

いますが、家族以外の人とシェアしているものはありますか？

田川 気づかずに「はぶらし」のシェアしてるやつがいて(笑) 衝撃的だった。あとは機会のシェアをしてるかもしれない。だれかが旅に行くときに僕が最初お金を渡したのが始まりだったんですけど。その代わりに、旅でどんな人に会ったとか、どんな体験をしたとか、どんな場所だったかという情報のシェアをしよう。そうしたら周りの人もお金を出すようになったんです。旅行中の活動の幅も広がるので、シェアしてもらおう情報も増えますよね。

森 犬。よく旅行に行くから自分の家では犬を飼えないんです。でも犬と触れ合いたいから、犬を飼っている友達から機会があれば積極的に預かるようにしています。してるっていうか、

してもらっているんですけど。貸してもらってます。

上山 それを言うと、子どももシェアしてますね。友達の子どもを家で預かっています。近所の友達から「ちよつと今日子どもを見る人がいなくて」って言われたら、「うちいいですよ」と預かるんです。そんなにしょっちゅうというわけではないですけど。最近のお母さんずつと子ども見えないといけなくて大変じゃないですか。家におじいちゃんやおばあちゃんがないと余計に。うちは子どもがいらないので、あいてるときは預かりますよって。

森 汽水空港もよく預かってます。近所の子どもの子守りしながら店やっています。

上山 おじいちゃんおばあちゃんの話聞いていると、昔は本当に物がなかったけど、つながりで生きていたんだなと感

自分がどう見られるか
気にしない関係。



じることがあります。貧しい食べられない人は食べ物が増えて残っている農家とかに行つて一晩泊めてもらつてご飯食べさせてもらつてとか、そういうことを日常的にやつていたと。今の人は全然家に呼ばないし、誰も入らないよねつて言っていました。当たり前に行われていた助け合いみたいなのがなくなつちやつたなつて。

(4) シェアハウスについて

田川 シェアハウスを調べていくと、多くは1年以内になくなつていくということがわかりました。住む人がいなくなつちゃうんですね。結婚より難しいといわれています。ビジネス的にはたくさん

の人に入居してもらうのがいいんでしょうが、シェアハウスはそれだけではうまくいかないところがあると思います。シェアハウスの原型は何かと考へて、全国の学生寮などを見て回りました。ハウスマスター、いわゆる

寮母なんですけど、そんな第3者の存在が重要だと感じています。それからなぜ続いているかというところ、入居者たちがなくしたくないからではなく周りの人が続けてもらいたいと思つているから続いているというところに行き着きました。

上山 ビジネス的にやるよりも、いかにその土地の人と一緒に作るかが大事なんです。ただ、シェアハウスが実際の家族と違うのは、「排除」するかもしれないところがあると思います。シェア

ハウスだと気に入らない人がいれば相手か自分が出て行つて終わり。家族だと、腹が立つたり気に入らないことがあつても、例えば病気や介護が必要となつたときに無視できるかというと……。

森 書店のように場所を開いていると、いろんな人が来ます。子どもが来て本破かれるし、宗教団体が僕を救いの対象として救おうとやってくるし。そのたびに、誰も排除せずにやっていくにはどうしたらいいんだろうというも考えています。

水田 ちいさいうちとこのスペースでちよつと擬似家族みたいな感じのことをやっています。月1回みんな朝から来て、遊んで、お昼一緒に作つて食べて、だらだらして、

終わりという感じで。明確な目的があるわけじゃなくて一緒に過ごすという時間を作っているという感じです。長年やっているの、もう大人になつている人も多いです。

基本的には受け入れる姿勢にしますが、その人が「ここ違うな」と思つたら別のその人にとつての居心地のいい場所に行つてもらつて構わないと思つています。でも繰り返し来てくれたらすごく嬉しいですけどね。排除することはしませんが、それは一人ではできないことで、思いを共有できる人がたくさんいるから成り立っていることだなと思います。

本日はありがとうございました。

排除することはしませんが、それは一人ではできないことで、思いを共有できる人がたくさんいるから成り立っている



家族の公式。①

家族に纏わる活動紹介②

産後ケア・やわらかい風

今、頑張っている人を大事にする



川口 映子さん 産後ケア・やわらかい風 代表

鳥取県鳥取市西品治 805

TEL 0857-20-3941 URL <http://yawakaze.org>

「実家が遠くて家族の支援が受けられない」「子どもをどう育てればいいのかわからない」「子育ての悩みを抱える人のために、産後ケア・やわらかい風では様々な支援を行っています。対象は主に生後すぐから12ヶ月頃までの赤ちゃんとお母さん。24時間休みなしのお母さんに安心して体を休めてリフレッシュする時間を提供します。メニューは、日帰りの赤ちゃんの一時預かりや、母子で一緒にやわらかい風で過ごす母子デイケア、赤ちゃんと一緒に宿泊し、赤ちゃんの世話や授乳のアドバイスが受けられるショートステイ、乳房ケアの受けられる母乳外来、助産師外来などのサービスの他、お父さんも対象とした産前教室、ちよつとした赤ちゃんの

室、ちよつとした赤ちゃんの気になることや困りごとの相談も受け付けています。また、全国で初めて赤ちゃん夜泣き保険「すやりんこ」(赤ちゃんが夜泣きをしたり、その他困ったときに赤ちゃんとお母さんが宿泊できる)を始めました。「困ったときにいつでも駆け込める場所があることでお母さん自身が安心して子育てをしてほしい。」と川口さんは語ります。

また、やわらかい風は地域に開かれた助産院として、誰でも利用できる子ども食堂「くるみ食堂」「みかん食堂」や「カフェ桜居」の運営をしています。子育てに関する勉強会「やわ風サークル」や「やわ風バザー」は利用者だけでなく地域の

方々が気軽に集まることのできる場です。

家族に纏わる活動紹介③

チャイルドラインうさぎのみみ

家族の公式。②



子どもの気持ち聴く大人が増える

「チャイルドライン」というのは、18歳以下の子どもの気持ちを聴く活動です。毎年県内の全小学生、中学生、高校生に電話番号を書いたカードを配っていて、子どもたちはフリーダイヤルで電話をかけることができます。

全国組織が出来たのは1999年。鳥取県で「チャイルドラインうさぎのみみ」の活動が始まったのは4年後の2002年。子どもの自殺が問題になってきた時代でもありません。代表の楠本さんは言います。「子どもの身近で話を聴いてくれる大人が減ってきているのかもしれない。身近で話を聴いてくれる大人がたくさんいればなくなってもいい活動なのですが、まだ子どもたちからはたくさん電話がかかってきます。」親にも学校の先生にも話せない、そんな行

き所のない気持ちを電話してきます。

話の内容は様々。学校の悩み、家族の悩み、恋の悩み…。多くは「ちよつと話を聞いてほしい」という子どもたちからの電話ですが、中には深刻な悩みの相談もあります。そんな子どもたちの話を「聴く」ため、受け手さんは日々研修を積んでいます。また子どもたちの秘密を守るため、どこで、だれが話を聞いているのかすべて秘密にされています。

「チャイルドラインうさぎのみみ」はこれまで約20年、子どもたちの声を聴き続けてきました。子どもたちの話の背景に時代毎に子どもたちが感じている社会の不条理やコミュニケーションの取り方の変化、生きにくさを知ることができ

楠本 知恵美さん
チャイルドラインうさぎのみみ 代表

TEL 090-6432-2967

家族の公式。

① 「インタビュー」

先生、「家族」ってなんですか？



「家族」という言葉は、使われる時の意図や時代によっても変化するので曖昧ですが、家族の形態の変化を捉える際の概念に「近代家族」という言葉があります。農業が中心だった時代の生活形態では、血縁が重要視される家族のあり方でした。それが戦後になると工業化が進み、サービス産業も発展し、いわゆるサラリーマンの働き方が登場します。そうすると、田舎から都市へ人が移住し、そこで旧来のイエから離れ、自由な意思で結婚して家族を形づくるようになります。そこでは、夫婦と子どもからなる核家族が増加します。このように戦後の工業化にともなう核家族という形態は、「近代家族」と呼ばれます。これが学問でも大きな転換と捉えられています。ですが、最近はその近代家族も馴染まない形になってきています。日本の近代家族が前提するのは、男性が外で働いて女性は家庭で家事・ケアを担う、そして男性の背後には家族をくるめ

て福利厚生等で面倒を見る会社がある。このような近代家族が高度経済成長を支えてきましたが、会社は家族をくるめて面倒を見なくなり、女性が働き始めるなど、近代家族の前提が変化しています。もう一つ、最近の傾向として大きいのが急速に増えている未婚化です。2015年の国勢調査の数字では、男性の23%、女性の14%は生涯結婚しない（あるいは結婚という形をとらない）というデータがあります。そもそも家族は複数の人の集合体ですが、それすらも変化している。単身世帯がこれから高齢化していくと、老後のサポートやあり方はどうなるのかということろで、グループホームやコミュニティホームの取り組みが重要になってくると思います。

単身世帯の話がありました
が、例えば進学して一人暮らしをしている大学生など、住む場所が離れていても家族がいる、と思う人もいますよね。



住む場所（住居）と家族の関係は

重要だと思っています。行政用語で「世帯」という言葉があります。世帯とは住む場所と生計を同じにする人の集まりで、家族を把握するための概念としてできた言葉です。もともとは世帯と家族は概ね一致していましたが、今は乖離しています。行政が家族を把握するために作った世帯という言葉が、家族を捉え切れていないというのはここ最近思います。いま家族をサポートするさまざまな制度は、世帯という概念のもとに作られて

ています。ですが、そもそも人の意識の中の「家族」と「世帯」が乖離しているとなると、「世帯」に基づいて制度を作ってもフィットしません。

「近代家族」の後の「家族」についての言葉は、学問ではまだ出てきていないんでしょうか？



そうですね。近代家族が時代にそぐわなくなっている。この後どうなっていくのかは学問的にも課題です。

家族が多様化している一方で、気になる傾向だなと思うものがあります。戦後、統計数理研究所という研究機関が取り続けている「日本人の国民性調査」という社会調査があります。この調査の中で、「あなたにとって一番大切と思うものはなんですか」という質問があります。「お金」「仕事」「健康」など色々な選択肢があるのですが、1980年代以降は「家族」をあげる人が最も多く、戦後着実に高まっています。家族の多様化などの



東根ちよ先生に 家族ついて 聞いてみました。

いつこともある。それは息苦しくなく
いい傾向だなと思います。

本当にそうですね。一方で
家族を選択することの弊害は
ないでしょうか？

文脈の中では、家族に縛られるのが
嫌でゆるい家族観を求めていると一
見思われていますが、一番大切だと
いう人が増えているというのは、着目
すべき点だと思います。そのウエイト
がどんどん、しかも急速に高まってい
るというところを、どう捉えるかです
よね。旧来の家族を求めているのかど
うかは分からないですが、着実に高
まっている。この点はあまり語られる
ことはないですが、重要だと思ってい
ます。

コミュニティホームやシェア
ハウスは家族を選択するとい
う感じがしますね。

そうですね。選択したいと思ってい
るし、選択が可能になっている。そこ
は大きいですね。社会的な制約で
できなかったことが、声をあげれるよ
うになって、選択肢が増えてきたって

そうですね。制度との関係が課題
です。基本的に制度は対象を定めて
そこに対して何を給付するかサポー
トしていくのか、というもので
多様化に対応することが苦手です。
福祉では問題になっていますね。高齢
者、障がい者、子どもの分野であつ
たり、各制度から漏れ落ちる人たち
が出てくるような大きな問題です。
社会的には受け入れられつつあるけれ
ども、制度は中々対応がしきれない。
特に日本には、近代家族とい
う形によって高度経済成長期を成し
遂げてきたという成功体験がありま

東根先生にとっての家族って
なんでしょうか？

私にとつての家族は、先ほどの「日
本人の国民性調査」の例にもれず
(笑)、一番大切なものです。人の意
識の中でも高まっていますが、私個人
にとつても大切なものです。特に子育
て支援について研究していると、どれ

す。その成功体験があるがゆえに中々
抜け出せない、良い循環で回ってきた
ものが機能しなくなってるけれど、次
の一步が踏み出せない。でも社会は
大きく変わっている、人の意識も変
わっている、つていうところがすごく
課題ですね。

ほど社会サービスが整ったとしても、
子どもの成長や発達にとつて家族とい
うものが重要だという事実があるの
で、完全に子育てを社会化できると
は思えません。子育ては一つの例に
過ぎませんが、やはり重要で、大切
なものとしてあり続けるんだろうな
と。それは個人にとつても研究者に
とつても、一つの大切な軸になります。
ただ、その家族のあり方が、色々な
形になってきている。大切なものだけ
らうこそ考え続けなければならぬし、
現在の家族の問題に、デリケートに
反応できる社会であり個人でないとい
けないなと思います。

東根 ちよ

鳥取大学地域学部 地域学科 地域創造コース 講師
博士（政策科学）





D デザイナーイシハラ

上下巻と2号に続いての特集「家族の公式」、お疲れ様でした。
いろんな方に取材をしたと思いますが、どうでした？印象深かったこととか。

E エディターイケブチ

今、家族に^{まつ}纏わる様々なことが起こっています。そんな中で、家族ってなんだろうな、わからないなという思いで取材をすすめました。まず印象に残ったのは上巻の河上さんとちひろさんの対談ですね。「みんなと同じじゃないといけない」という思想から自由になって、自分と大切な家族が幸せなあり方を選んでいくというお話だったと思います。

D

いろんな家族像や家族のあり方があるってことは一つ、具体的なものとして見えたよね。
ホームレス支援の人とお話した時に、ホームレスとハウスレスは違うって聞いて。ハウスレスは居住する場所を持ってない人、ホームレスは家族などのセーフティネットとなる人がいないこと。

家族とは「誰かの帰る場所」であること、というのがしっくりきました。

D

「Tottori と Tokyo」特集で、東京に出ている人たちがみんな「鳥取はいつか帰る場所」って答えてたのを思い出した。

そうでしたね。それから、みんななぜか幸せについて語っていました。

D

「幸せな家族」というのが暮らしの一つのゴールだとしたら、あるようでない「普通」とか「常識」として言われる「幸せな家族像」に縛られると、自分にとっての「幸せ」とずれてしんどくなってしまいうよね。それぞれ「自分にとっての幸せ」は違うのに。

D

「家族が」って言って、イメージしているものが違う。ある家族像のせいで、自分なりの家族を築く人が阻まれたり、邪魔をされたりしないような社会にしたいね。対面とか、恥とか、そういうものを守ることを優先してしまっていないかと。

D

言葉の意味合いもどんどん変わっていくように、常識もどんどん変わっていく。それが狭い世界の中だけにいるとわからなくて、狭い人間関係だけが大事になってしまう。そういう意味でも「拡張する家族」みたいなものが大事なのかも。

家族を重要視しすぎることで起こる問題もあるでしょうね。今回の取材では特に、自分と相手の使っている言葉が同じ意味をもっているかどうかということが揺らぎました。一人の人の中でも変化するでしょうね。「家族は形ではなく経緯」という言葉も印象的でした。どういういきさつで家族になったのか。どんな家族にも時間軸があって変化するので、形には当てはめられないという気づきでした。

そのためには想像力と行動力がいりますね。自分の家族を大切にするように他の家族を大切にできるような。

何気なく言った「普通」の言葉に誰かが傷ついているかもしれない。現在の制度と意識が、わたしたちの生きる現実と乖離している隙間に課題が生じたりするのだと思います。だけどそれは見えにくい。常に当たり前を疑いながら、変化していく家族を支援する取り組みにこれからも注目していきたいです。



今日もみくに。

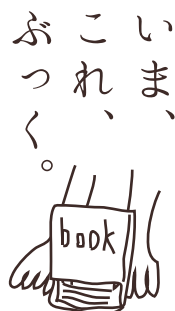
その8

「用瀬町の『アンコロ』の巻。

私たちは「復活」が好きである。それは「復活」の持つ物語性に心が動かされるからだ。その裏側には苦労や努力や創意工夫があり、挫折や困難を乗り越えようとする強い意志がある。それが私たちの心を惹きつける。ときなり熱く語ってしまいましたが、2017年に鳥取市用瀬町で見事な復活劇があったのはご存じでしょうか？復活したのはアンコロマンジュウ。復活させたのは、古民家カフェのオーナー、山根実さん。

100年近く前、町が賑わっていた頃に町内で売られていた和菓子で、戦後には姿を消してしまったという幻のアンコロマンジュウを再現しようという、まさに「復活」プロジェクトです。詳しい製法が伝わっていませんという点で、まずは書籍を調べるところから始め、さらにはいわれを知る住民の方に聞き取りをして、一度は途絶えてしまったアンコロマンジュウの復活を目指したそうです。その原動力は名物を復活させることで用瀬に活気を取り戻したいという強い思い。試食会で関係者の意見を求め、さらなる高みを目指しました。こうして用瀬町に再び蘇ったのは、その名も用瀬名物「アンコロ」です。赤小豆の黒いアンコロと白インゲンの白いアンコロ。求肥をあんこで手包みし、寒天で衣掛けをして仕上げました。

山根さんは言います。途絶えた伝統を復活させて、それを100年後にもつなげたい。と。春には桜アンコロ、秋には栗アンコロも限定で登場するとか。思わず立ち寄りたくなる用瀬の実現に向けて、小さなアンコロの大きな復活。中に詰まっているのは、単なる過去の再現ではなく、未来へとつながる希望なのです。



Now, this, books

思えば家族ほど、優しく温かく、残酷な人間の繋がりがあるだろうか。著者、光野桃が、多感だった自身の成長と、それにつれて変化していった家族との関係を回想し綴った本書。やさしげな表紙と瑞々しく平易な文

体は人を拒まないが、しかしこの静かな佇まいの一冊は、家族の中の娘“という役割を担ったひとの、痛烈な懺悔の叫びの一冊だ。痛くて苦しくて、とても気軽には読めない。そう思うのは、私自身もまた、家族に対して多くの悔恨を抱えた娘のひとりだからだ



実りを待つ季節

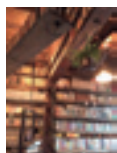
著者：光野 桃
出版社：新潮社 (2002/04)
ISBN-10: 4101401268
ISBN-13: 978-4101401263

ろう。

家族関係のなかでも、娘にとっての父親という、絶対的な異性の存在は特別なものだ。父を慕い、畏怖する感覚は、やがて自らが成長し、父以外の何者でもなかったはずの人が、一人の悩める男性であることに気付くとき、戸惑いや嫌悪となつて自身や家族の均衡を崩していく。父が思い描いたであろう理想の娘になれないコンプレックスを、反発するこ

とで誤魔化しながら、娘は一方で、「お父さんと泣きじゃくって縋り、優しい手で頭を撫でてもらうことをいつまでも求めている。互いに愛情を持て余し、上手に父娘でいられなくなってしまう著者とその父の悲しさが、光輝く豊かな筆致のなかに拭えない影を落としていた。そして別れは必ず訪れる。慟哭が端正な行間から漏れ聞こえた。お父さん、ごめんなさい。いかないで。その絶叫は、著者の声でもあり、こみ上げるものに思わず目を閉じた私自身の声のようでもあった。

前田 環奈
(邯鄲堂 店主)



邯鄲堂 (かんたんどう)

鳥取市吉方町2丁目311 電話：080-2940-2127

メール：kantan-do@jeans.ocn.ne.jp ブログ：http://kantando.blog.fc2.com/

営業時間：11時～19時 不定休

高校生ing

現在進行形の高校生の
動きを紹介する



今回は閉校となった小学校の校舎を活用し、地域の交流を深める活動を行っている「安部小 Project」代表の内田さんにインタビューしました。

Q. 安部小 Project はどういった活動を行っているのですか？

現在中学2年生から高校3年生のメンバー12名を中心に、月に1回の定例会と校舎内の清掃活動、また地域行事への参加を行っています。また、2018年の夏には「安部っ子夏祭り」を自分達で企画し、運営も行いました。

Q. 活動を始めたきっかけについて教えてください。

平成28年度3月末をもって、八頭町にある安部小学校が閉校となり、近隣の小学校と統合となってしまいま

した。それに伴って地域内での交流が減ってしまったように感じていました。

そんな時、弟から「安部小の校庭で遊びたいけど、草が生い茂って遊べない」と言われて、「じゃあ、草取りでもするか」と友人と一緒に草取りを始めたんです。すると、校舎内にゴミが散乱していることに気づいて、校舎内も掃除したいなと思い役場の方に「掃除をさせてください」とメールを送ったことがきっかけで、定期的に校舎清掃を行う活動を始めました。

他にも何かできないかなと思い、安部小を卒業したメンバーに声を掛けて「安部小 Project」を立ち上げました。メンバーと意見交換を行うなかで、地域の交流を促す取り組みとして「安部っ子夏

溢れる『地元愛』 蘇れ！我が母校

うちだ かなと
内田 奏杜 さん

(安部小 Project 代表 / 学校法人鶏鳴学園 青翔開智高等学校 2 年生)

○安部小 Project フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/abe.elementary.school.project/>

○取り組みの主な受賞歴

・ PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY

第 22 回 ボランティア・スピリット・アワード 「中国・四国ブロック賞」

・平成30年度トトリズム活動表彰「最優秀賞」、「若者活動部門優秀賞」等



祭り」を自分達で企画運営することになりました。

夏祭りでは出店やステージ発表などを行い、当日は約400人の方に来て頂けました。

Q. 実施に向けて準備など大変ではなかったですか？

最初は「何から手を付けたらいいんだろう」と不安でした。町から補助金を頂けることになったのですが「そもそも補助金って何？」、また「関係各所への許可はどうやるの？」「広報はどうやって？」「こうしたことを誰に相談したら…」と、他にも色々分からないことだらけでした。ですが、役場の人や地域の方に教えてもらいながら準備を進めていき、開催までに至りました。大変でしたがこれだけでも色々学ぶことや経

験ができたので、それは良かったです。

Q. これからの活動について教えていただけますか？

自分は「安部小 Project」の代表として、この取り組みがメンバーに「モノではなく心」の記憶として残ってほしいなと思っています。というのも「心の過疎化が進めば地域はなくなってしまう」と自分は思うんです。心の過疎化が進まないように「地域の要的な存在」である旧小学校を通して「地元愛」を、自分も含め関わってくれた方にも感じてもらい、「ここ八頭町に住んでいて良かった」と思ってもらえるようにしていきたいと思っています。



質問「あなたにとって家族とは？」



【編集後記】

子どもたちが小さかった頃、「うちの家族の中に1組だけ、他人同士がいるんだよ」というと、びっくりしたような顔をしていたことを思い出す。当たり前だが、家

族のすべての構成員が血縁ではないのだ。狭義の意味では“家族”とは「血のつながり」×「法律で結ばれた」関係。親子というタテの関係と夫婦とい

うヨコの関係、ときには兄弟姉妹のナナメの関係が絡んでももちろんドラマが展開される。と、そんなことを考えながら「ホワイトデー」を今年もまた忘れそうに

なっている自分に気づく。
(毛利葉)

いまとこれからのとつとりのためのボランティア・地域づくり・NPOを考える情報誌
「いまと、これから。」 2019年3月25日発行(第11号)

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：齋藤明彦 編集人：毛利葉

取材・編集：池淵菜美、上山梓、谷祐基、大浦真奈美、足立みぎわ、水田美世、渡辺美幸、世瀬あけみ、尾崎可愛

デザイン：石原達也 写真：市川貴美江

お問合せ：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <http://tottori-katsu.net/>

〒682-0023 倉吉市山根 557-1 パープルタウン 2 階 TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail info@tottori-katsu.net



読者アンケート
にご協力く
ださい。



「いまこれ」
バックナン
バーはこちら
から。

